

'10.11.19

P25-260
セラ
バズ
ユ

国内外研究者と

クルクミン機能の最新成果を発表

ウコンに含まれるポリフェノールの一種、クルクミンは、肝機能の強化や、がん、メタボ予防など多様な生理作用が解明されている。クルクミン製剤「セララバズ」を展開するセラバズ社は1日、ク

ルクミン研究の最新成果を紹介する勉強会を実施。第一人者のバラット・アガワル米国テキサス州立大学MDアンダーソンがんセンター教授と、日本の4人の研究者が、がん、心不全、運動疲労軽減に関する研究成果を発表した。

クルクミンは水に溶けにくく、経口摂取しても、小



バラット・アガワ教授

腸からわずかに吸収され、ほとんどが体外に排出される。クルクミンの効能を最大限に引き出すためには、体内への吸収率の改善が最も重要な課題とされてきた。

セラバズ社では、クルクミンの難吸収性を改善したクルクミン製剤「セララバズ」を開発、クルクミン粒子を細かくして安定化させ、体内への吸収機能を大幅に改善することに成功した。

同社は今後も国内外の研究者と共にクルクミンなどの研究を続ける計画だ。またセララバズの開発技術は、難溶性の機能性食品素材および医薬品の吸収成功上技術として広く応用が可能な面でも期待されている。